

平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月13日

上場会社名 ソーシャル・エコロジー・プロジェクト株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6819 URL <http://www.social-eco.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小松 裕介
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画室 (氏名) 岩井 俊輔 (TEL) 03(5786)3900
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	1,658	5.9	29	—	54	779.9	37	△68.0
25年3月期第3四半期	1,565	△4.3	△8	—	6	△27.5	116	78.3

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 34百万円(△73.6%) 25年3月期第3四半期 129百万円(183.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	1.48	—
25年3月期第3四半期	5.43	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	1,130	597	52.9
25年3月期	1,070	298	27.9

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 597百万円 25年3月期 298百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0	—	0	0
26年3月期	—	0	—		
26年3月期(予想)				0	0

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,121	2.9	35	258.6	31	△13.9	30	△80.9	1.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社、除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

26年3月期3Q	26,496,537株	25年3月期	21,496,537株
② 期末自己株式数	18,973株	25年3月期	17,923株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	25,332,434株	25年3月期3Q	21,479,251株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による一連の経済政策「アベノミクス」への高揚感から、企業収益及び個人消費が改善するなど景気は緩やかな回復をみせました。景気の先行きは、オリンピック招致が東京に決定し中長期的にも景気浮上を後押しするものと期待されておりますが、消費税増税が決定するなど消費低迷への懸念等により、未だに不透明さが残っております。

このような状況下、当社が展開するレジャー事業では、11月上旬までは19年ぶりとなる台風30号の発生など天候不順が続きましたが、伊豆シャボテン公園グループの「伊豆半島最大のテーマパークづくり」や「年間入園者数200万人」を目標に、伊豆シャボテン公園の「元祖カピバラの露天風呂」を中心に安定した集客数と売上確保に努め、更なる経費削減を実施しております。映像・音盤関連事業では、継続してCM制作受注に努め、新規にキャラクタービジネスとして伊豆シャボテン公園のオリジナル新キャラクター「シャボ10(テン)ファミリー」を企画開発しております。また投資事業では、引き続き過去に投資した債権の回収を図っております。リスクマネジメントの観点から事業ポートフォリオの再構築についても適宜検討しております。

なお、当第3四半期連結累計期間は、過去から継続している訴訟案件の費用など訴訟関連費用が合計28,901千円(前年同四半期は6,466千円)、また株主総会運営費用が15,218千円(前年同四半期は3,701千円)となっております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間は、売上高16億58百万円(前年同四半期比5.9%増)、営業利益29百万円(前年同四半期は営業損失8百万円)、経常利益54百万円(前年同四半期比779.9%増)、四半期純利益37百万円(前年同四半期比68.0%減)となりました。

当第3四半期連結累計期間の概況をセグメント別に申し上げますと次のとおりであります。

(レジャー事業)

レジャー事業では、11月上旬までは19年ぶりとなる台風30号の発生など天候不順が続きましたが、伊豆シャボテン公園グループの「伊豆半島最大のテーマパークづくり」や「年間入園者数200万人」を目標に、以下の売上向上施策を行いました。

伊豆シャボテン公園では、“伊豆の冬の風物詩”となった「元祖カピバラの露天風呂」を開催し、冬至の時期に開催する「カピバラのゆず湯」、伊豆半島の温泉地から運んだ源泉を入れる「カピバラの温泉」や「伊豆シャボテン公園V S 長崎バイオパーク カピバラの露天風呂対決」など様々な関連イベントを実施する他、大人気のカピバラに関連したオリジナル商品「カピバララーメン」や入浴剤「カピバラのゆず湯のもと」の発売を開始しました。また愛知県春日井市「春日井サボテンプロジェクト」と共同で商品開発・企画展示やPRを行う「伊東・春日井サボテンコラボ!」を発足し、「サボテンを食べたい!」というお客様のご要望を形にしたサボテンメニューの販売を新たに開始するなど集客に努めました。伊豆ぐらんぱる公園では、日本で初めてGPS探知機を活用した謎解き探検アトラクションの完結編「伊豆ぐらんぱる探検隊vol. 3 トレジャーハント～呪われた財宝“X”と終わりの呪文」を導入いたしました。伊豆四季の花公園では、開園50周年を記念し、入園者全員に伊豆四季の花公園招待券付きクリスマスカードを1枚プレゼントする「クリスマスキャンペーン」を実施いたしました。伊豆海洋公園ダイビングセンターでは、水中に巨大クリスマスツリーとポストを設置し、ダイバーたちが水中ポストを通じて、『クリスマスカード』を投函することができるクリスマス特別イベントを実施いたしました。また伊豆高原旅の駅ぐ

らんぱるぽーとでは、レストラン「さらduさら」において、静岡県伊東市立富戸小学校の生徒たちと共同開発をした新メニュー「富戸定食」などの新発売を行い集客に努めました。

この結果、レジャー事業では、売上高15億40百万円（前年同四半期比4.7%増）営業利益54百万円（前年同四半期比178.0%増）となりました。

（映像・音盤関連事業）

映像・音盤関連事業では、CM制作による売上や当社が保有するコンテンツの二次使用による著作権収入があった他、新規にキャラクタービジネスとして伊豆シャボテン公園のオリジナル新キャラクター「シャボ10（テン）ファミリー」を企画開発しております。

この結果、映像・音盤関連事業では、売上高1億17百万円（前年同四半期比24.7%増）営業利益0百万円（前年同四半期連結累計期間は営業損失20百万円）となりました。

（投資事業）

投資事業では、具体的な投資案件はありませんでした。

この結果、投資事業では、売上高はありませんでした。

（その他）

その他の事業では、売上高0百万円でした。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

流動資産は、前連結会計年度末に比べて34百万円増加し、2億81百万円となりました。これは主として、短期貸付金が30百万円増加したこと等によります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて25百万円増加し、8億48百万円となりました。これは主として、建物及び構築物が8百万円増加したこと等によります。

この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べて59百万円増加し、11億30百万円となりました。

（負債）

流動負債は、前連結会計年度末に比べて2億8百万円減少し、3億56百万円となりました。これは主として、短期借入金が1億13百万円減少したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて30百万円減少し、1億76百万円となりました。これは主として、退職給付引当金が27百万円減少したこと等によります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて2億39百万円減少し、5億32百万円となりました。

（純資産）

純資産合計は、5億97百万円となりました。

また、自己資本比率は前連結会計年度末の27.9%から52.9%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年5月10日に発表しました平成26年3月期通期の連結業績予想及び同年11月12日付「営業外収益及び特別損失の発生並びに業績予想の修正に関するお知らせ」にて発表した平成26年3月期通期の個別業績予想は、現時点での変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

1 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

2 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度の減価償却費の額を期間按分する方法により算定しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

1 税金費用の計算

当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効率を乗じて計算する方法を採用しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、平成25年3月期におきまして営業利益9,759千円を計上し7年ぶりに営業利益の黒字化を達成し、当第3四半期連結累計期間においても営業利益29,683千円、経常利益54,767千円、四半期純利益37,402千円を計上いたしましたが、依然として継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在します。

ただし、「第4(3)継続企業の前提に関する注記」に記載のとおり、当該重要事象等を解消するための改善策を実施しているため、将来的に継続企業の前提に関する重要な疑義は解消されると考えております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	154,343	150,417
売掛金	18,622	23,230
未収入金	455	59
商品等	11,656	16,563
短期貸付金	—	30,381
その他	62,802	72,813
貸倒引当金	△1,103	△11,919
流動資産合計	246,777	281,546
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	386,789	395,093
土地	270,252	270,252
その他	59,655	79,501
有形固定資産合計	716,696	744,847
無形固定資産		
その他	—	5,631
無形固定資産合計	—	5,631
投資その他の資産		
投資有価証券	90,465	70,507
長期貸付金	24,090	20,750
長期化営業債権	97,111	96,569
破産更生債権等	2,466	754
その他	16,465	27,747
貸倒引当金	△123,667	△118,073
投資その他の資産合計	106,930	98,254
固定資産合計	823,627	848,733
資産合計	1,070,404	1,130,280

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	56,376	43,597
短期借入金	113,139	—
未払金	306,066	219,557
前受金	10,777	10,065
預り金	11,356	8,077
未払法人税等	5,311	9,729
賞与引当金	16,116	29,089
債務保証損失引当金	20,000	20,000
その他	25,802	16,394
流動負債合計	564,946	356,511
固定負債		
繰延税金負債	1,893	—
退職給付引当金	164,253	136,285
その他	40,819	39,748
固定負債合計	206,966	176,034
負債合計	771,913	532,546
純資産の部		
株主資本		
資本金	268,591	401,091
資本剰余金	—	132,500
利益剰余金	40,052	76,870
自己株式	△13,241	△12,728
株主資本合計	295,403	597,733
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,087	—
その他の包括利益累計額合計	3,087	—
純資産合計	298,491	597,733
負債純資産合計	1,070,404	1,130,280

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	1,565,595	1,658,386
売上原価	643,949	681,963
売上総利益	921,645	976,422
販売費及び一般管理費	930,241	946,739
営業利益又は営業損失(△)	△8,595	29,683
営業外収益		
受取利息	416	680
為替差益	7,962	5,026
償却債権取立益	500	250
退職給付引当金戻入益	—	20,351
その他	8,691	9,334
営業外収益合計	17,570	35,643
営業外費用		
支払利息	2,751	947
貸倒引当金繰入額	—	9,612
営業外費用合計	2,751	10,559
経常利益	6,224	54,767
特別利益		
新株予約権戻入益	180	—
投資有価証券売却益	149	1,000
債務免除益	10,516	2,392
債務消滅益	101,354	3,900
特別利益合計	112,201	7,292
特別損失		
固定資産除却損	—	2,068
投資有価証券評価損	—	14,976
減損損失	289	—
特別損失合計	289	17,045
税金等調整前四半期純利益	118,136	45,014
法人税、住民税及び事業税	1,408	7,611
法人税等合計	1,408	7,611
少数株主損益調整前四半期純利益	116,728	37,402
四半期純利益	116,728	37,402

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	116,728	37,402
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13,216	△3,087
その他の包括利益合計	13,216	△3,087
四半期包括利益	129,944	34,315
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	129,944	34,315
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

当社グループは、「第3 継続企業の前提に関する重要事象等」に記載の当該状況を解消すべく、以下の対応策を講じ、取り組んでまいります。

グループ全体では、更なる“集中と選択”を行って、経営資源を集中して競争力の向上を目指します。引き続き経営効率を高め、グループ経営改革の実施を図るとともに、経費・人材配置の見直しやオペレーションの改善などにより、更なる販売費及び一般管理費の削減を図ります。また財務体質の強化、キャッシュ・フロー面における改善では、金融機関との連携の強化による手元資金の確保、保有資産の売却を行ってまいります。

レジャー事業では、㈱サボテンパークアンドリゾートや㈱伊豆四季の花・海洋公園が運営する各施設において、魅力的な公園施設の改善、夜間営業など営業時間の長期化、アトラクションやイベントの拡充、物販の拡充、お客様満足度向上、効果的な宣伝広告を実施することにより集客力の強化を図ります。

伊豆シャボテン公園では昨年に引き続き「元祖カピバラの露天風呂」を中心に集客力向上を図ります。伊豆ぐらんぱる公園ではアスレチックやトランポリンなど小学生低学年を対象としたアトラクションの強化をしてまいります。伊豆四季の花公園では1年を通しての花イベントを目指し植樹植栽に注力します。伊豆海洋公園ダイビングセンターではブランド力を活かした営業を強化してまいります。また伊豆高原旅の駅ぐらんぱるぽーとでは有名店舗とのコラボレーションを通じて飲食店の強化を図ってまいります。

映像・音盤関連事業では、㈱FLACOCOのCM制作事業や伊豆シャボテン公園のオリジナル新キャラクター「シャボ10(テン)ファミリー」のキャラクタービジネス事業に注力します。

投資事業では、引き続き慎重に市場動向を見定めるとともに、事業育成及び既存の債権、保有資産の有効活用による収益の効率化を図ります。

これらの改善策を通じ黒字体質への転換を図ることで、将来的に継続企業の前提に関する重要な疑義は解消されると考えております。

しかしながら、上記の改善策をとるものの、当該改善策を進めるための資金調達計画の実行可能性において、不確実性があり、当該対応を行った上でもなお継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

前連結会計年度末に比して、以下のとおり株主資本の金額に著しい変動が認められます。

(単位：千円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
前連結会計年度末残高	268,591	—	40,052	△13,241	295,403
当第3四半期連結会計期間末までの変動額					
新株の発行	132,500	132,500	—	—	265,000
四半期純利益	—	—	37,402	—	37,402
自己株式の売却	—	—	—	651	651
自己株式の取得	—	—	—	△139	△139
自己株式処分差損	—	—	△584	—	△584
当第3四半期連結会計期間末までの変動額合計	132,500	132,500	36,818	512	302,330
当第3四半期連結会計期間末残高	401,091	132,500	76,870	△12,728	597,733

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	レジャー 事業	映像・音盤 関連事業	投資事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,471,221	93,911	—	1,565,133	461	1,565,595	—	1,565,595
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	4,879	—	85,714	90,594	25,714	116,308	△116,308	—
計	1,476,101	93,911	85,714	1,655,727	26,176	1,681,903	△116,308	1,565,595
セグメント利益 又は△損失	19,561	△20,627	△4,078	△5,144	△3,451	△8,595	—	△8,595

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。
 2. 売上高の調整額△116,308千円は、セグメント間取引消去であります。
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	レジャー 事業	映像・音盤 関連事業	投資事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,540,695	117,153	—	1,657,849	536	1,658,386	—	1,658,386
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	3,904	11	85,714	89,630	26,158	115,788	△115,788	—
計	1,544,599	117,165	85,714	1,747,479	26,695	1,774,174	△115,788	1,658,386
セグメント利益 又は△損失	54,380	0	△6,677	47,703	△18,477	29,226	457	29,683

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。
 2. セグメント利益又は損失(△)の調整額457千円は、セグメント間取引消去であります。
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。